



# 学内学会会報 第20号

## 社会学部学内学会20周年によせて

水谷 史男

(社会学部長 学内学会会長)

明治学院大学社会学・社会福祉学会の会員の皆様、学内学会も今年で20周年を迎えます。1991年6月に発足した「社会学・社会福祉学会」（通称学内学会）は、1969年にはじまる大学紛争の中で解散した旧「明治学院大学社会学会」を、当時の学生、教員、卒業生の努力で新たに再建されたもので、学会誌『Socially』も1993年3月に創刊号が出されました。今年度発行予定の『Socially』も20号となります。当時の会長・社会学部長の加藤雄司先生は、創刊号で「革袋と酒」の譬を引いておられます。新生学内学会という革袋に、豊潤な酒が満たされたことを喜び、社会学部の教育研究がさらなる発展を遂げることを期待されておられました。それから20年。20年という年月は、生まれた赤子が立派な大人になる長い時間です。

ちょうどこの年、春浅い3月11日に東日本の太平洋岸で大震災・津波・原発事故が発生し、たくさんの人々が命を失い、家をなくし故郷を離れる不幸に見舞われました。こんなことを誰が予想したでしょう。被災地は言うまでもなく、東京にいた私たちも深く心を痛め、今もなお続く過酷な事態に何とかできることはないかと考える日々です。明治学院の社会学部は、その長い伝統として社会の底辺で苦しむ人々、もっとも弱い者への視線を大事にしてきました。そうした先人の精神を受け継ぎ、ここを巣立った卒業生の方々も、日本の各地、あるいは世界のあちこちで病や貧困の中、よりよい生活を求める子ども、障害者、高齢者などの苦難を思い、少しでも手助けできることはないかと考えておられると思います。今こそ、そうした思いを結びつけるために学内学会も新たな一歩を踏み出したいと思います。

大震災の余震が続く中、大学も卒業式、入学式を中止し、授業も再開を遅らせるという非常事態を迎えています。嬉しいことに新しい時代を担う若い新入生が社会学部に入ってくれました。私たちは過去の教訓と知恵を未来にしっかり伝えていくために、次の20年を輝か

しく実りあるものにしたいと願っています。6月25日の総会、記念祝賀会には是非多くの会員の方々に白金にお集まりいただき、語り合おうとお待ちしております。

### 第21回総会・特別講演会のお知らせ

今年度は、学内学会創立満20年記念の行事を致します。多くの方々のご参加をお待ちしています。

日時：2011年6月25日（土）  
14時（受付開始13時30分）  
会場：明治学院大学 白金校舎  
本館10階 大会議場

1. 総会 14時～14時40分  
議 題：(1) 会長挨拶 (2) 議長選出  
(3) 2011年度学会役員について  
(4) 2010年度活動報告および決算報告  
(5) 2011年度事業計画および予算  
(6) その他
2. 20周年記念行事 15時～16時30分
3. 懇親会 16時45分～18時30分  
(パレットゾーン2階)  
会費1,000円（会費は、東日本大震災の被災者への義援金および本学ボランティアセンターの援助活動への寄付金とさせていただきます。）

### 『Socially』20号記念特集「つながり」 投稿原稿募集のお知らせ

編集部では『Socially』20号発刊を記念して、多くの方々にご参加いただけるように、特集を組んでおります。テーマは「つながり」です。とくに「つながりを感じる時はどんな時か」について、皆さんの経験やご意見を自由にお書きいただき、ご投稿をお願いします。字数は140字です。

詳細は、同封の「お知らせ」文をご覧ください。多くの方々のご投稿をお待ち申し上げます。

2011年3月5日「春の講演会」の講演より

## 「共に生きる社会とは」

杉山佳子



退任を前にした3月5日に、私は社会学部学内学会の会合でお話をさせていただき、「明治学院の思い出」として二つのこととお話した。一つは自分自身の学生時代の思い出、もう一つは今一番関心を持つと同時に危機感さえ抱いている出来事についてである。

学生時代について話をするために手元にある資料を調べてみて、現在の学内学会は、私が学生時代を過ごした1960年代の学内学会とほぼ同じ活動をしているように思われた。そのために、現在の学会誌『Socially』と同じ役割を持っていると思われる1962年6月に発行された「社会学と社会福祉学」第5巻の目次を紹介してみたい。

巻頭言と随筆「イタリーに旅して」と題して、若林龍夫先生、研究論文は「足立地区における日雇い労働者の生活実態調査・・・渡辺社会実習グループ、「児童の性格と社会意識—北海道砂川市東洋高压工業所における—」・・・児童問題研究部、「農村の変容—生業を中心として—青森市大字六枚橋調査報告・・・社会学研究会、「農村テレビ視聴調査レポート」・・・館社会実習グループ、通信のページとして1961年度卒業生の卒業論文題目が載せられている。

現在の学内学会誌はほぼ同じ内容になっていて、新たに卒業生インタビューとゼミ紹介とが付け加えられている。当時は文学部であったが、明治学院社会学部の伝統は50年の歴史を経て変わっていない。社会学と社会福祉学が同じ社会学部の中にある意義を大切にしたいものであると改めて思っている。

私はソーシャルワーカーとして活動する中で、これまでに相談者であるクライアントから多くのことを学んだ。ソーシャルワーカーは支援計画を立てるために、アセスメントとして個人の特徴を知り、その環境（自

然界も含めている）との相互作用の中でどのような行動しどのように感じたのかを聞いていくが、その支援過程の中で、人の生き方の多様さや豊かさに感動し、与えられた人生に向き合うクライアントの力強さに改めて敬意を払うことが多い。

最近出会ったクライアントに母親一人で4人の子どもを育てている方がいる。3人目の子どもが小学校入学のための就学時健康診断を受けたところ、知的な水準としては軽度の遅れがあるとして、自宅から離れたところにある特別支援学級の固定級を勧められた。保育園でごく普通に受け入れられ、そのまま地域の子ども達と学ぶことができると思っていた母親にとってはショックなことであった。固定級を勧めた専門家は、少人数のクラスで教師に手厚く教えてもらえる質の高い教育環境を用意できたと思っていると推測されるが、母親は「区別すると言いつつ差別をしていると思う」と訴えた。その出会いをきっかけに私は「特別支援教育」について関心をもって情報を集めてみると、その学校だけでなくいろいろな地域で通常学級から特別支援学級に追いやるが行われている現実を知った。保護者が同意しないで通常級を希望すると母親が学校に付き添うことを求められるということも知った。

国際社会で承認されつつあるインクルーシブ教育の実現は、我が国ではまだまだ先のようなのである。しかし小学校より数十年前から保育所では統合保育が行われている。私がかつて勤務していた保育所にはいつも障害を持った子供たちが一緒に生活していた。その保育所では30年前に2歳の重症の脳性まひの男の子が入園してきたことが、統合保育を行うきっかけになった。その時、障害を持った子供が入園することを子どもも保護者たちも自然に受け入れた。最も影響を受けたのは子ども達だった。言葉にならない声を発する男の子と十分にコミュニケーションがとれていたのである。地域の小学校に進学し、特殊学級から通級のために普通級に行くこと、保育所で一緒に過ごした子ども達はその子を取り囲んで車いすを押す。私は生まれながらに障害を持つ子供から、人間とはなんと多くの可能性を持っていることかを教えてもらった。

私たち専門職者として活動するのは専門書を読み人間が作った理論が正しいと錯覚し、人間から学ばなくなっているということがありはしないだろうか。障害という現状に目を奪われて一面だけでとらえてその子供の学ぶ機会と環境を奪っているのではないか。

ノーマライゼーションの理念の実現は児童の分野だけではなく高齢者の分野にもその実現が求められる。たとえば認知症の高齢者は記憶が不確かである。徘徊するという理由から区別をされ、一般の高齢者から離れた部屋に入所させられる現実がある。

この度の東日本大震災は自然の脅威に対していかに人間が無力であるかを改めて思い知らされた。この現実、自然と共存するための知恵を引き出すと同時に、効率性を重視し繁栄を求めてきた価値観について考え直すきっかけになることだろう。

## 2010年度 学内学会事業報告

### ★会報19号発行

5月31日(月) 発行部数 5,500部

### ★第20回総会・特別講演会・懇親会

6月26日(土) 白金校舎 10階大会議場

特別講演会は、講師に社会学科の澤野雅樹先生をお迎えして、「生と性—生き物に関する知の刷新について—」をテーマにお話をいただいた。

### ★研究発表会

11月13日(土) 発表者は、ゼミ10件、個人参加10件(学生5件、大学院生4件、卒業生1件)。発表者を含めて158人の参加者があり、3つの会場で活発な発表が行われた。今年度と昨年度の発表者の中で、3ゼミが発表内容を論文にまとめ、『Socially』19号に投稿している。

・第一分科会 (1451教室)

「The Essence of Caring for Street Children in Cambodia」 明石留美子ゼミ

「ストリートチルドレンを防ぐために家族にとって大切なことは何か」 明石留美子ゼミ

「second STEP—生協の売り上げ報告から見えた課題—」 教育プロジェクト・STEP

「知的障害者の自立と雇用・就労—『就労継続支援A型』全数調査から見えてきたもの—」

阿部優美 (社会福祉学専攻博士前期課程)

「区民成年後見人制度と特別養護老人ホームの利用者」 渡邊麻衣子 (社会福祉学専攻博士前期課程)

「スクールカウンセラーからみた公立小学校の今」 佐藤哲男 (1973年度卒業)

・第二分科会 (1455教室)

「宮下公園のナイキパーク化の真実を探る」

渡辺雅子ゼミ

「下川町における『森の生活』」 坂口 緑ゼミ

「サッカーにおけるサポーターコミュニティ—静岡県 の例から—」 齊藤雄一朗 (社会学科3年)

「持続可能な地域社会をめざして—ひきいる地域を事例として—」 浅川達人ゼミ

「野球文化と都市の創造—東北楽天ゴールデンイーグ

ルスを例に一」 大森大栄 (社会学科4年)

「浜松周辺地域のピアノ生産の産業集積」

彦田俊輔 (社会学科4年)

「『国民皆保険』の誕生—社会保険の概念分析の試み—」

斎藤 潤 (社会学科4年)

・第三分科会 (1456教室)

「興望館キャンプ」 遠藤興一ゼミ

「昔と今の命の『重さ』—『いのちの学習塾』に参加して—」 小池隆生ゼミ

「日伊精神医療の比較」 村上雅昭ゼミ

「1%の出産場所を選ぶ女性の声—助産院・自宅出産を選択する女性たちのインタビューより—」

柄本夏紀 (社会学科4年)

「住民参加型在宅福祉サービスの現状と課題—社協運営型サービスを中心に—」

松宮 透 (社会福祉学専攻博士前期課程)

「貧困家庭への一時扶助 (Temporary Assistance to Need Families: TANF) に関する一考察」

泉谷朋子 (社会福祉学専攻博士後期課程)

「地域包括支援センターにおける実践—実習報告より—」

杉山佳子ゼミ

### ★『Socially』19号発行

3月15日(火) 発行部数 3,000部

## 2010年度 学生会・活動報告

### ★社会学部スポーツ大会 (担当 鈴木成美・宮崎志穂)

5月15日(土) 白金校舎アリーナ体育館

社会学部総勢220名が参加して行われた今年のスポーツ大会。バレーボール・ムカデ競走・大縄跳びの三種目で総得点を競い、学年・学科の垣根を越えて大いに盛り上がりを見せた。

### ★夏合宿 (担当 安住友一・片桐 敦)

9月2日(木)~3日(金) 鬼怒川温泉『白河湯の蔵』

鬼怒川温泉にて行われた合宿では秋学期の企画に向けての会議が行われた。2日目には日光東照宮を見学するなどし、学生会委員全体の交流を深めた。

### ★社会学科ゼミサロン (担当 天知彩乃・絹川なつみ)

10月11日(月)~15日(金) 白金校舎本館4階

社会学科在籍の09年度生を対象に、次年度のゼミ選択に向けて各ゼミの先輩方から直接話を聞ける機会を設けた。ゼミごとのブース形式で行い、サバティカルの藤川・宮田ゼミを除く全15ゼミ、09年度生約160名が参加した。

### ★社会学部座談会 (担当 入不二惟道)

12月3日(金) 白金校舎1504教室

テーマは『教育』。当日は学科の枠を超えて社会学部全体の学生13人が参加し、様々な視点で“教育”について語り合った。なおこの内容は、編集されて『Socially』19号に掲載した。



★社会福祉学科座談会（担当 綾部 光・澤田春香）  
12月6日(月) 横浜校舎434教室

社会福祉学科の1・2年生を対象に、『子どもと福祉』というテーマで座談会を行った。当日は社会福祉学科の学生19名が参加し、09生と10生の交流を深めた。

★永井均特別講演会（担当 末光次郎・末永はるか）  
12月21日(火) 白金校舎1201教室

テーマは『自分—生まれてきたことと死ぬことの意味—』。今回は日本を代表する哲学者、永井均先生をお招きした。当日は100名以上が参加し、普段触れることの少ない哲学の話に耳を傾けた。

★杉山佳子先生最終講義（担当 綾部 光・安住友一）  
1月18日(火) 白金校舎1301教室

テーマは『家庭福祉論』。2010年度で退官される杉山佳子先生の実績を、社会学部全体の公開授業として行った。

### 2010年度卒業生部会活動報告および2011年度の活動方針

2010年度、社会福祉学科においては杉山佳子教授がご定年を迎えられました。そのため3月5日(土)に卒業生部会と社会学部共催で、杉山先生をお迎えして「春の講演会」を開催致しました。「明治学院の思い出」というテーマで、杉山先生の社会学部付属研究所における研究の歩みをお話いただきました。先生のご業績は社会学部付属研究所の歩みにおいて、永くとどめられることになりました。出席者は54名でした。

「社会学・社会福祉学会」は1954年に発足した「社会学部友の会」を新しく組織したものであり、1991年6月1日の総会において創立されました。そのため、本年6月25日に行われる第21回総会は本学会の創立20周年記念企画によるものとなり、機関誌『Socially』第20号は創立20周年記念特集号となります。本会は「学生、卒業生及び教員の相互の協力・共同により」社会学部の発展に寄与することを目的にしております。卒業生諸氏のますますのご協力により、本学会の将来への発展を祈念するばかりです。

(卒業生部会委員長 丸山義王)

### 異動・消息

2011年3月 社会福祉学科教授 杉山佳子先生ご退任

### 学内学会 新体制

会長	水谷史男（社会学部長）
副会長（主任）	松井 清（社会学科教授）
副会長	北川清一（研究所所長）
編集担当	西阪 仰（社会学科教授）

企画担当	岡 伸一（社会福祉学科教授）
会計担当	大瀧敦子（社会福祉学科教授）
卒業生部会委員長	丸山義王（1963年卒業）
学生部会委員長	安住友一（社会学科3年）

### 2011年度 学内学会活動予定

4月26日(火)	新入生説明会（白金校舎）
5月14日(土)	社会学部スポーツ大会
5月17日(火)	第1回合同役員会議
5月31日(火)	会報20号発行
6月25日(土)	第21回総会・20周年記念行事・懇親会
9月上旬	学生部会夏合宿
10月中旬	第2回合同役員会議
11月上旬	社会学科ゼミサロンの開催
11月中旬	社会福祉学科座談会
11月中旬	研究発表会
12月上旬	学生部会主催講演会
2月中旬	第3回合同役員会議
3月上旬	卒業生部会主催「春の講演会」
3月中旬	『Socially』20号発行

### 編集後記

会報第20号をお届けします。3・11、この会報の製作中に東日本大震災が起きました。私たちが想像している以上の犠牲がありました。しかしそれでもただ傍観している日々を捨て、復興へと立ち上がろうとする人々の姿には、静かな感動を感じずにはいられません。多くを失い、日々の幸せを再認識させられた未曾有の大震災から復興へと進み行く日本の中で、20周年を迎えて学内学会も共に歩みを進めて参りたいと思います。今年度もご支援をよろしくお願い致します。

(学生部会編集担当 社会学科3年 末光次郎)

お知らせ  
社会福祉学科卒業生からの国家資格についての問合せは、学内学会事務局が、メールまたはファックスで受け付けます。後日、社会福祉学科に問合せ、わかる範囲で回答いたします。

連絡先：〒108-8636 港区白金台1-2-37  
明治学院大学社会学部付属研究所内  
明治学院大学社会学・社会福祉学会  
E-mail shakaimg@soc.meijigakuin.ac.jp

※住所変更の際はハガキ又はメールでご連絡下さい。